



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017 シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、2012 年から福島県立博物館が福島県内の文化施設、大学、NPO 等と行っているアートプロジェクトです。

福島県の文化や自然の豊かさの再発見と、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以降に福島がおかれた状況を芸術文化的アプローチによる共有・発信することを目的としています。

このたび、災害と文化財について考えるシンポジウムをいわき市で開催いたします。

東日本大震災、および東京電力福島第一原子力発電所事故は様々な領域においてこれまでにない対応を迫りました。従来、中長期的なプロセスを経て保管されていた考古資料・民俗資料といった文化財（モノ）が、原発事故に対する緊急措置である文化財レスキューの活動により、避難指示区域から搬出され、仮の衆像場所に移動されました。現在、市民の帰還政策と併せ、避難指示解除区域の文化財は元の地域への帰還が準備されつつ

ある一方、帰還困難区域の文化財はその目処がたっていません。同時に震災遺産の収集は進んでいます。本シンポジウムは、特に福島の文化財の状況を、地域の問題に限定せず、フクシマ後の文化財と文化をめぐる制度について考える場としたいと思います。福島県内外で文化財や災害の記憶の継承に携わる学芸員・研究者らが一堂に会し、各自の専門領域から、震災から6年が経過した福島と文化財をめぐる議論する場です。なお、本シンポジウムは映像作家・藤井光が撮影、映像作品とし、震災後に文化財・文化が置かれた状況を伝えるアーカイブとなることも企図しています。





シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」

【会場】

いわき芸術文化交流館 アリオス 中劇場（〒970-8026 福島県いわき市平字三崎 1-6）

【日時】

2017年10月5日（木） 15:00～18:00

【講師】

- 五十嵐太郎 東北大学大学院教授／建築学
市田真理 第五福竜丸展示館学芸員
内山大介 福島県立博物館学芸員
香川檀 武蔵大学教授／表象文化論・近現代美術史
加藤幸治 東北学院大学教授／民俗学
蔵屋美香 東京国立近代美術館学芸課長
五野井郁夫 高千穂大学教授／政治学・国際関係論
小林めぐみ 福島県立博物館学芸員
高橋佳代 広島平和記念資料館学芸員
藤井光 美術家・映像作家
本間宏氏 福島県文化財センター白河館まほろん学芸課長
吉野高光 双葉町教育委員会総括主任主査兼生涯学習係長/元双葉町歴史民俗資料館学芸員

【参加費】

無料

【申込】

不要

【主催】

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会（事務局：福島県立博物館）

【協力】

「寄留者たち」実行委員会、カディスト美術財団

【企画・撮影】

藤井光

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト詳細はこちら→<http://hamanakaizu.jp/>

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

事務局 〒965-0807 会津若松市城東町 1-25(福島県立博物館内)

Tel 0242-28-6000(福島県立博物館代表)

Fax 0242-28-5986

担当: 塚本、小林